

ひびき雲 第10回

「プーチンの戦争から見たもの」

突如ロシア軍がウクライナ攻撃に踏み切った。少し前からアメリカが警告していたが、多くの人が「今時そんな前時代的戦争が起こるのだろうか」と半信半疑だった。だがプーチンは簡単に戦争を始めたのだ。しかしその後、予想外の苦戦にいら立ち市街地（市民）攻撃、チェルノブイリや稼働中の原発施設の占領、病院・学校等の子供たちも大勢いる施設の爆撃、更に核配備の脅しなどエスカレートしており、こうしたプーチンの狂気ぶりに種々憶測まで飛んでいる。

開戦の理由は「兄弟であるべきウクライナが、NATOに加盟しようとしており、ロシアの脅威となっている」というものだった。それがその後「ウクライナ東部のロシア人に対するジェノサイドが起きている」「核を秘かに保有しようとしている」などと勝手な難癖をつけた挙句、ウ

クライナ全面攻撃を展開しており、攻撃の狙いは傀儡政権樹立を飛び越えウクライナの併合ではないかとみられている。ソ連時代の共産化と同じ手法だ。冷戦は終わっていないかったのだ。

ウクライナの歴史は、ロシア、ポーランド、バルト諸国、ルーマニアなど巻き込んだ分割と統合を繰り返した。蒙古襲来で滅ぼされた歴史もある。しかし近年は共産化を進めるソ連に組み込まれ永年スターリンの圧政に苦しんだ。1932～3年に起こった大飢饉の際には、ウクライナから大量の食糧をソ連が奪ったため、400～1000万人が餓死したという。一説にはウクライナの豊かな農地をソ連が国有化するため農民から土地を奪うための飢饉だったといわれている。このことは後日「ホロドモール」と呼ばれ、2006年にはウクライナ政府によってジェノサイドと認定されたが、この歴史的な事実は長らく隠蔽され、1965年「赤い闇、スターリンの冷たい大地」という映画でやっと明らかにされた。今回のウクライナ侵攻では大勢の子供を含む民間人が無差別爆撃されており、西側メディアはホロドモールに匹敵する虐殺と一斉に報じている。しかし、ロシアでは厳しい報道規制に加え、これ

ら民間人の犠牲の映像は、ウクライナが俳優などを使って意図的につくられたものなどと盛んにフェイクニュースを流している。

この「プーチンの戦争」はどうなるだろう。戦争のカギは首都キエフの攻防だろうが、開戦3週間で漸くキエフ近郊に達したロシア軍だが、ウクライナの志願兵を含む強い抵抗で、キエフの市街戦では多くの犠牲者発生が危惧される。正に正念場だが、もう一つこの戦争にはカギがある。キエフ制圧にどのくらいの日時を要するかに依るが、まだ1週間近くかかるようだと、様相が変わる可能性があるかもしれない。都市に侵入しても住民の抵抗は強く、制圧にはさらに多くの兵や兵糧などが必要なうえ、ロシアには時間とともに厳しい経済制裁が重く押し掛かってゆくと見られるからだ。ことに「SWIFT」での銀行間の国際決済網からシャットアウトされたことと、「WTOの最恵国待遇」の適用外とされ、ロシアに対する追加関税が実行される影響は極めて大きいとみられるからだ。さらにロシア経済の根幹である石油・天然ガスの輸入制限措置にEUが踏み切れば、ロシア経済は致命的影響が不可避、経済破綻に

陥る可能性すらある。既にデフォルト必至とみられている。ロシア経済はもともと軍事力に比べ脆弱だ。ドイツ等EU諸国へのパイプライン整備に伴う天然ガスの輸出増に支えられて、このところ順調そうに見えているが、前回のクリミア併合に伴う経済制裁を受けており、そこに今回の何倍も重い追い打ちが課せられたのだから、戦争が長引けば戦費負担にも耐えられないだろうし、輸入物資の途絶からロシア国民は、ひどい物不足とインフレに見舞われるだろう。

正に制圧と制裁圧力の時間競争が生じるだろう。だが、本当の課題はウクライナの人々が抱くプーチンへの怒りの強さだ。それを軍事大国といえど力により制圧・統治出来るのか、世界から孤立し信用を失ったロシアが経済破綻のリスクをどう乗り越えてゆこうというのか。プーチン王朝は、この戦争で「ロマノフ王朝」の崩壊以来の危機を抱えたのかもしれない。今日初めて「ロシア人も国外に避難」というニュースが流れた。経済制裁による失業などの他、通信手段や報道が規制された異常な状態を嫌ったことだという。

この戦争が勃発してから、日本各地で

往年の名画「ひまわり」(伊)が上映されている。第2次大戦で生き別れた男女の悲劇を描いたものだが、ソ連戦線で行方不明となった夫を探してひまわり畑をさ迷う妻、そのひまわり畑が撮影されたのはウクライナ南方のヘルマンだ(先日ニュースのテイロップに「ロシア軍、ヘルマン制圧」と流れた)。その妻に地元の農民が「この畑の下には、兵隊の死体はどこにでも埋まっている」と言うシーンがあった。そしてそのひまわり畑をヘンリーマンシーニの主題歌が切なく流れた。夫を探す妻だけでなく戦死した兵士たちの嘆きも込められていたのだろう。あの「ひまわり」が咲くウクライナの大地は今また戦争で蹂躪され、双方の兵士の血がまた流れている。プーチンの戦争は一体何を齎すというのだ・・・。